

「みんな食堂」 おいしいものを囲んで人と人をつなぐ



▲「次は何を作ろうか」「みんなで食べるとおいしいね」食卓を囲むと笑顔があふれ出す。 2019（平成31）年3月5日

写真提供 南三陸町社会福祉協議会

2018（平成30）年4月に南三陸町社会福祉協議会が運営する高齢者生活支援施設「結の里」が志津川地区に開所した。2017（平成29）年からこの施設の活用の仕方については住民たちがワークショップなどで検討や試行を重ねてきた。そのアイデアのひとつが「みんな食堂」だった。

2018（平成30）年7月、地域住民を対象に昼食の場を定期的に設ける活動「みんな食堂」が始まった。初回には、近隣の災害公営住宅に住む高齢者や親子連れなど約40人が参加した。参加費は300円。4グループに分かれて夏野菜のカレーライスを作り、食事や多世代交流を楽しんだ。

8月と1月を除く月1回開催し、毎回住民たちのアイデアを取り入れて、さまざまなテーマで行われて来た。食事を他者のために作り、みんなで食卓を共にすることを通して、参加者はコミュニティの一員として存在を認め合う。子どもから高齢者まで、多世代の交流も実現できる。「みんな食堂」はコミュニティづくりに最高の場となる。

コロナ禍においては結の里だけでなく、町内の災害公営住宅の集会所でも、生活援助員とそれぞれの住民たちが分散型の「みんな食堂」を開催するようになった。みんなでお弁当を作り宅配するなどして、町民同士の交流はゆるやかに続いている。クリスマスともなれば、自らサンタクロースやトナカイに扮して食事を宅配する参加者もいる。地域の福祉を支える「人財」は、このような活動の中で着々と育まれている。